

第35回
日本エイズ学会学術集会・総会

SCB
シンポジウム
1

HIV 感染症の 根治に向けて

| 1 |

HIV リザーバーの制御への課題

2021年11月21日(日) 13:30 ▶ 15:00

会場

グランドプリンスホテル高輪

〒108-8612 東京都港区高輪3-13-1

第1会場 (B1F プリンスルーム)

本セミナーは、
ハイブリッド形式
(現地開催+WEBでの
ライブ・オンデマンド配信)
にて開催いたします。

座長

吉村 和久 先生
石田 尚臣

東京都福祉保健局健康安全研究センター

デンカ株式会社

講演

1

リザーバーの視点から、HIV 診療での問題点

演者 | 古賀 道子 先生 東京大学医科学研究所

講演

2

HIVウイルスリザーバー：現状と課題

演者 | 佐藤 賢文 先生 熊本大学
ヒトレトロウイルス学共同研究センター

講演

3

【潜伏HIV リザーバー縮小・排除への道のり】
HIV リザーバー形成・維持メカニズムは制御可能か？

演者 | 武内 寛明 先生 東京医科歯科大学大学院 歯医学総合研究科
ウイルス制御学分野 / 医学部附属病院

共催シンポジウム

HIV 感染症の 根治に向けて

| 1 |

HIV リザーバーの
制御への課題

1979年、カポジ肉腫という稀
有な疾患が若い男性に多発していること
をきっかけに、HIV 感染症が認知され、その
後WHOのパンデミック宣言をはじめ、現在世界
で3,800万人と推定される感染者がおられます。治療
介入できた場合、免疫不全の発症は防ぐことができますが、
今も1,260万人の感染者が治療薬にたどり着けない状況や、
たとえ治療介入が可能であっても、断薬することができず、根
治できない慢性感染疾患であり続けています。

このような現状を踏まえ、下記のような開催主旨を
もって共催シンポジウムを開催させていただ
きたいと思います。

開催主旨

HIV 感染症の根治には、HIV リザーバー
の主体となる潜伏感染細胞除去が必須と考え
られている。戦略的潜伏感染細胞除去に用いる薬
剤開発等が進められているが、効果判定のためのウイル
スリザーバーサイズの測定法が確立されていないなどの技術
的な課題も多く残されている。本シンポジウムは、基礎、臨床の各
研究者様、患者様、企業様など、それぞれのお立場よりご協力いただ
けるシンポジストをお招きし、HIV 感染症根治を目指すため、ウイルスリザー
バーの重要性の共有、関連する新しい技術や研究の紹介などを介し、意見交
換と討議を行うことでHIV 感染症根治への一助となる情報共有の場とし
て開催することを主旨といたします。HIV 感染症根治を目指す意義
の浸透をはかるには、従来 of 検査系の問題点を共有し、基礎
研究や臨床研究を反映させた技術的進歩だけでなく、患
者様や医療行政に関わる人々からの声の反映が必
須であり、本シンポジウムは本学会にて毎年1
回、3-5 年間の開催を目指します。